

## 令和元年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	ICT を活用した授業づくり方法の開発実践に関する小中連携プロジェクト
事業実施代表者名	白川卓
実施附属学校名	附属函館中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000 字程度で記述)	<p>本事業は、新学習指導要領の具現化を図る「新たな授業」において、ICT の効果的な活用に関する実践研究を幼小中連携して行うとともに、その検証を図り、21 世紀型学力を育む小中一貫のカリキュラムの充実を図ることを目的とする。</p> <p>新学習指導要領においては、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることを柱としており、本校は、附属学校としての役割・使命を果たすべくこれらの教育の動向を踏まえた先導的な研究を推進している。</p> <p>プログラミング教育を始め、「教育の情報化」において、モデルカリキュラムの作成、環境施設整備、教員研修による指導力の向上などの教育課題が山積しており、函館地区附属学校園で継続的に取り組んできた研究成果は、その実践を公表することで地域の教育課題の解決を図っていくことができる。</p> <p>今年度は、幼小中一貫のモデルカリキュラムの作成を進め、幼児児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成や ICT の効果的な活用についても検討し、今求められている「新しい授業」について、研究大会や合同の授業力向上セミナー、教科研究会等を様々な機会を通して、21 世紀型学力を育むための授業モデルについて検証を行った。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500 字程度で記述)	<p>新学習指導要領の具現化を図るモデルカリキュラムの構築において、全体の構造を図として整理するなど、より公立学校等への教育実践に寄与できる研究を推進することができた。しかし、その中においても公立学校園での環境整備が進まない状況にあり、これらの面についても、本校のリソースを活用した支援を進めていく必要がある。</p>
今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述)	<p>文科省より一人一台の端末活用環境及び超高速ネットワーク環境の構築が具体的に推進されようとしている。今後、北海道教育委員会や函館教育委員会を中心とする近隣教育委員会との連携を図り、その導入・整備や活用の諸問題等についても課題解決を図ってまいりたい。</p>
事業の公表状況 (事業をHPで公開し	<input type="checkbox"/> BYAD による 1 人 1 台の Chromebook 体制で 授業や学年・学級活動、各種校務を支援(2019/12/19)

た場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)	北海道教育大学附属函館中学校が提示する これからの “教育ICT” が目指す姿とは？ <a href="https://go.cloudplatformonline.com/x0G0010K3Xs0khJ0So5kzWn">https://go.cloudplatformonline.com/x0G0010K3Xs0khJ0So5kzWn</a>
----------------------------------	---

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。